

(平成22年11月分)

部 門	市況の概要
野 菜	１１月期の野菜の入荷状況は、夏期の高温の影響等により多くの品目で作柄が悪かったものの、中央集散機能の発揮により野菜全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、多くの品目で全国的な品薄状態から単価高となり、野菜全体では、前年同期を２９％上回った。 品目別には、西洋ニンジン、ハクサイ、キュウリ、ナス、ピーマンが入荷増の単価高となり、長ダイコン、ホウレンソウ、レタスが入荷並の単価高となり、カブラが入荷並の単価安となり、キャベツ、トマト、バレイショ、タマネギが入荷減の単価高となった。 根菜類は、入荷が前年並みで、価格は４０％高となった。 葉菜類は、入荷が前年並みで、価格は５０％高となった。 果菜類は、入荷が３％減少し、価格は３４％高となった。 土物類は、入荷が前年並みで、価格は２２％高となった。
果 実	１１月期の果実の入荷状況は、カンキツ類が裏年で入荷減であったこと、また、夏期の高温の影響等により多くの品目で作柄が悪かったことから果実全体の入荷量は、前年同期を１７％下回った。 価格は、入荷減により多くの品目で単価高となり、果実全体では、前年同期を３３％上回った。 品目別には、ジョナゴールドは入荷並の単価高となり、ミカン、ふじりんご、王林、富有柿、アールスメロンが入荷減の単価高となった。 カンキツ類は、入荷が１９％減少し、価格は４３％高となった。 りんご類は、入荷が１４％減少し、価格は２０％高となった。 カキ類は、入荷が２１％減少し、価格は８１％高となった。 メロン類は、入荷が１４％減少し、価格は７％高となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長大根 カブラ 西洋ニンジン	青森県を中心に、千葉県、徳島県、石川県、長崎県からの入荷。 各産地ともに播種期の高温干ばつの影響から作柄が悪かったものの、中央集散機能の発揮により入荷量は、前年同期並みであった。 価格は、全国的な品薄状態であったことから、前年同期 9 4 % 上回った。 京都府を中心に、滋賀県、北海道からの入荷。 主力の京都府で作付面積を増やしたが、生育期の高温干ばつの影響により作柄が悪く、全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、漬物用需要の低迷により、前年同期を 3 % 下回った。 長崎県を中心に、北海道、中国、オーストラリア、鳥取県からの入荷。 北海道産では、生育期の高温干ばつの影響から作柄が悪く、入荷減となったものの、国外産の入荷が順調であったことから全体の入荷は、前年同期を 8 % 上回った。 価格は、入荷増ながら、全国的な品薄状態であったことから、前年同期を 3 4 % 上回った。
【葉菜類】 ハクサイ キャベツ ホウレンソウ	茨城県を中心に、長野県、滋賀県、群馬県、鹿児島県からの入荷。 各産地とも生育期の高温干ばつの影響から作柄が悪かったものの、中央集散機能の発揮により入荷量は、前年同期を 1 4 % 上回った。 価格は、入荷増ながら全国的な品薄状態であったことから、前年同期を 7 7 % 上回った。 愛知県を中心に、茨城県、滋賀県、鹿児島県、長野県からの入荷。 各産地とも生育期の高温干ばつの影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を 1 1 % 下回った。 価格は、全国的な品薄状態であったことから、前年同期を 2 6 6 % 上回った。 京都府を中心に、徳島県、岐阜県、滋賀県、茨城県からの入荷。 各産地ともに播種期の高温干ばつの影響により、生育にばらつきがあったものの、1 0 月以降は生育順調となり、入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、加工業務用の堅調な需要により、前年同期を 2 3 % 上回った。

レタス	兵庫県を中心に、茨城県、長崎県、徳島県、長野県からの入荷。 各産地とも生育期の高温干ばつの影響から作柄が悪かったものの、中央集散機能の発揮により入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、全国的な品薄状態であったことから、前年同期を62%上回った。
【果菜類】 キュウリ	宮崎県を中心に、滋賀県、高知県、福岡県、北海道からの入荷。 各産地とも定植時の高温の影響により作柄が悪かったものの中央集散機能の発揮により入荷量は、前年同期を12%上回った。 価格は、入荷増ながら、全国的な品薄状態であったことから、前年同期を4%上回った。
ナス	高知県を中心に、岡山県、京都府、熊本県、徳島県からの入荷。 主力の高知県産、岡山県産で、天候に恵まれ作柄が良く、入荷量は、前年同期を16%上回った。 価格は、露地栽培の徳島産の入荷が例年より早期に終了したことから、単価の高いハウス栽培の産地からの入荷比率が高くなり入荷増ながら、前年同期を5%上回った。
トマト	滋賀県を中心に、福岡県、京都府、岐阜県からの入荷。 各産地とも夏期の高温干ばつの影響と10月以降の低温による着色の遅れから、入荷量は、前年同期を15%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を76%上回った。
ピーマン	宮崎県を中心に、高知県、大分県、兵庫県からの入荷。 主力の宮崎県産、高知県産の作柄が良好であったことから、入荷量は前年同期を27%上回った。 価格は、中旬までは、入荷が少なく単価高で推移した。下旬以降、主力産地からの入荷が集中し単価安となったが、全体では、前年同期を3%上回った。
【土物類】 バレイショ (メーク含む)	北海道を中心に、長崎県からの入荷。 主力の北海道産で夏期の高温の影響にから作柄が悪く、全体の入荷量は、前年同期を4%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を19%上回った。
タマネギ	北海道を中心に、兵庫県、アメリカ、中国、京都府からの入荷。 主力の北海道産は、夏期の高温の影響から作柄が悪く入荷減となった。兵庫県産の冷蔵品の出荷や国外産の入荷が著しく増加したものの全体では、前年同期を4%下回った。 価格は、全国的な品薄状態から、単価高であった前年同期をさらに28%上回った。

【その他野菜】

生シイタケ

徳島県を中心に、北海道、広島県、和歌山県、岡山県からの入荷。多くの産地で高温の影響により発生が少なかったものの本市場での北海道産の取扱量の増加により、全体の入荷量は、前年同期を7%上回った。

価格は、入荷増により前年同期を8%下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
ミカン	和歌山県を中心に、福岡県、長崎県、愛媛県、佐賀県からの入荷。本年は、裏年のため着果数が少ない上に、各産地ともに夏期の高温干ばつの影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を19%下回った。 価格は、入荷減と食味良好であることから需要増となり、前年同期を43%上回った。
ジョナゴールド	青森県を中心に、岩手県、秋田県からの入荷。 夏期の高温干ばつの影響により作柄は悪かったものの、中央集散機能の発揮により、入荷量は前年同期並みとなった。 価格は、りんご全体の入荷が少なかったことから、前年同期を20%上回った。
ふじ （サン含む）	青森県、長野県を中心に、岩手県、山形県、秋田県からの入荷。 夏期の高温干ばつの影響により商品にならない日焼け果が多発したことに加え、小玉傾向での入荷となったことから、入荷量は、前年同期を23%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を24%上回った。
王林	長野県を中心に、青森県、岩手県、福島県、秋田県からの入荷。 夏期の高温干ばつの影響により商品にならない日焼け果が多発したことに加え、小玉傾向での入荷となったことから、入荷量は、前年同期を25%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を17%上回った。
富有柿	奈良県を中心に、福岡県、京都府、和歌山県、鳥取県からの入荷。各産地とも3月の晩霜の被害と夏期の高温の影響による日焼け果の多発により入荷量は、前年同期を35%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を92%上回った。
アールス	熊本県を中心に、静岡県、高知県、宮崎県、茨城県からの入荷。 本月が出荷のピークとなる高知県、宮崎県で作付面積が減少しており、全体の入荷量は前年同期を6%下回った。 価格は、入荷減により、前年同期を4%上回った。